

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4392400026
法人名	社会福祉法人 三加和福祉会
事業所名	グループホーム 和楽の里
訪問調査日	平成 20 年 2 月 14 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 27 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 2月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4392400026
法人名	社会福祉法人 三加和福祉会
事業所名	グループホーム 和楽の里
所在地 (電話番号)	玉名郡南関町九重坂本3424-3 (電話) 0968-66-6355
評価機関名	特定非営利活動法人 ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6-41-5
訪問調査日	平成20年2月14日

## 【情報提供票より】(20年 1月 25日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 19年 3月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤	人, 常勤換算 7 人

## (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(2月14日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	0名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 90.1歳	最低	79歳	最高	97歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	田尻医院 田尻歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「和楽の里」は社会福祉法人三加和福祉会を母体法人に、南関町指定第一号の地域密着型グループホームとして平成19年3月に開設された。同敷地内に「和楽荘デイサービス・南関の里」があり、ホームとデイの職員は毎朝お互いの施設に出かけ、利用者に挨拶を交わし馴染みの関係作りをしている。デイの休日には、リハビリ設備をホームの利用者に開放し、同法人内設備の有効活用が行われており、職員も全員常勤雇用で、安定した環境でサービスの質向上を目指している。職員は地域の区役に積極的に参加し、地域住民としての役目も担っている。多彩な行事を企画し、祭りや交流の場へ参加するなど、外出支援を行い、利用者がその人らしく、地元で継続して生活できるように熱意を持って理念の実現に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 平成19年3月開設のため、今回が初回の評価。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者を中心に全職員参加の勉強会を開き、外部評価について意義の理解に努め、自己評価に取り組んでいる。管理者も職員も、「自己評価を実施したことで、多くの気づきを得ることが出来た」と感想を述べており、質の改善へ努力する姿勢が窺える。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 家族代表・地域代表・行政担当者などの出席で定期的に開催している。ホーム側から利用者の生活状況・ホームの取り組みを報告し、行政や地域代表からは町や区の行事予定、祭りの案内などの情報が伝えられ、祭り参加の際は、見学に安全な場所を提供されるなどの配慮を得ている。会議は和やかな雰囲気で行なわれ、参加者はホーム運営のサポーター的役割を果たしている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 全利用者の家族が週に一度は面会に訪れ、利用者・家族・職員が接する機会が多い。管理者は機会あるごとに「何かありませんか?」と声掛けし、意見を引き出す努力をしている。職員に直接伝えられたことや、他の家族の意見を代弁する家族に伝えられたこと等は、運営推進会議に報告し検討され、施設運営へ反映する体制がとられている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 母体法人の支援もあり、開設準備段階から地元行政・区との交流に努め、地域活動へ積極的に参加している。ホームの意義と存在が住民に受け入れられ、近隣住民からは野菜の差仕入れ、野菜作りの援助もあり、友好的な交流がある。警察、消防署、地元消防団との連携、支援体制も確立されている。

## 2. 調査報告書

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織の理念を基本に、「家庭的で明るい、心の通う家族作り」を目指し、社会作りに貢献してきた高齢者が住みなれた地域で、その人らしく継続して生活ができるように支援するホームとして、地域密着型の意義を反映した独自の理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームは平成19年3月に開設され、採用された職員は理念や「その人らしさ」についての勉強会に参加し、理念の共有を行なっている。また、母体組織での定期的な勉強会で、サービス内容と質の向上や、接遇などを学び、理念の実現へ向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設準備段階から、「社会福祉法人とは何か」「グループホームとは何か」など、地域に向け説明し理解を得る努力を行い、区の仲間入りを果たしている。お宮の掃除、田の草取り、空き缶集めなどの区役へ、母体組織の職員も含め積極的に貢献し、地域住民・社会資源としての存在感を示している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部研修で評価について学び、勉強会で職員に伝え、意義の共有を図っており、「評価」を介護活動を振り返る良い機会と捉え、全職員で取り組んでいる。管理者も職員も、「多くの気づきを得ることができて良かった」という感想を述べており、改善に前向きな姿勢が窺えた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元区長・民生委員・家族代表・町担当職員・母体施設長・統括・管理者・担当職員の参加で定期的に行なわれている。ホーム側から、利用者の生活状況や事故報告などを行い、参加者からは地元の行事や祭りなどの情報を得ている。昔から土地に伝わるドンドヤなどの行事を掘り起こし、利用者と再現するなど、会議の参加者を通し、交流への発展が見られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町指定第1号のホームということもあり、開設当初から「共に育てましょう」という町の姿勢で、書類作成等にも協力的な態勢がある。社協からの見学、公民館長、民生委員などの訪問もあり、町との連携を基に、地元との交流が機能している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	全利用者の家族が週に一度のペースで面会に訪れるので、暮らしぶりの報告は面会時に直接行なわれており、外出に際しては、必ず事前に家族の確認を得ている。ホームの活動内容や利用者の暮らしぶりなどを家族や地域の方々に伝える「グループホーム便り」の発行が検討中である。	○	日々の生活の様子や行事参加時に撮られたスナップ写真が沢山あり、元気で過ごされている様子を知ることができる。これらの写真を活用し、ホーム便りを発行することで、面会時以外の様子を家族に報告する手段となり、完成に期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はまだ設立されていないが、他の家族の意見を運営推進委員会で代弁する家族の存在があり、意見を伝えることができる。ポータブルトイレの便座が冷たいという利用者の意見も運営委員会で伝えられ、早速、便座シートを使用するなどの方法で改善されている。	○	家族会の設立は近々に予定されおり、今後の活動が期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の人事異動は職員の希望・適正を考慮し毎年実施されているが、グループホームに関しては、異動を最小限にすることが母体法人の考えである。開設以来、職員一人の入れ替わりはあったが、職員の協働で利用者へのダメージを軽減し、隣接するデイ施設の職員が日頃から出入りするなど、馴染みのある関係作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数が浅い職員には、実践研修やリーダー研修への参加を促し、質の向上を行なっている。また、法人全体で毎月行なわれている研修会では、認知症・接遇・医療管理・産業医や社労士の話など、様々な課題について学ぶ機会があり、ホームの職員も意欲的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設初年度ということもあり、内部運営の充実に優先順位をおき、GH連絡協議会への正式参加は行なっていないが、時期を見ての参加を検討している。懇意にしている事業所を訪問し、課題や問題点を話し合い、情報交換等を行なうこともある。	○	管理者は町や同業者に働きかけ、地域密着型のサービスネットワークを作ることに意欲を示しており、今後の活動が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新設のため入所者は同法人内の特養の窓口や、ケアマネジャーの紹介などで3人、4人と入所し、約7ヶ月間でゆっくりと満床になった。入所前は同法人内のショートステイを体験してもらい、職員が自宅を訪問し、顔なじみになるなどの工夫をしている。「ここに来て良かった。100歳まで頑張る」という入居者の声も聞かれ、短期間で職員との信頼関係構築ができていた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者同士が以前からの知り合いの人もあり、仲が良く、助け合いの精神がみられる。浴衣のたたみ方、梅干作り、お寿司の巻き方などを職員が教えてもらう機会も作られている。気持ちが沈んでいるような利用者には、居室で1対1で話しを聞いたりドライブに誘うなど、気分の回復を図り支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントで、本人にとって大切なもの、馴染みのあるものなど、家族からできるだけ多くの情報を得、使っていたものの持込を勧めている。職員は利用者の様子を見ながら、必要な時間をとり、ゆっくりと話を聞き、思いをくみ取る努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議を開催し、職員の気づき・本人・家族・主治医の意見を反映して、チームで介護計画の策定が行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態は個別支援記録に残し、定期的なケース会議で介護計画の見直しを行っている。状況・状態に変化が生じた場合、速やかに見直し作業が行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	週に一度通院が必要な利用者で、家族の同行が出来ない場合には職員が同伴し、病状を確認している。買い物に出かけたい利用者にはできるだけ実現できるように努めている。今後、要望があればお彼岸のお墓参りなども支援することを検討中である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は入居時に協力医院で受診カルテを作り、ホーム内での急変時に協力医の往診を受けられるような体制作りが出来ているが、かかりつけ医の継続受診希望を尊重し、通院には家族同行を基本として対応している。協力医とかかりつけ医との連携も円滑に行えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	比較的介護度の低い利用者が多く、1年目ということもあり、ターミナルの事例はまだない。家族との面接時に日頃の様子を伝えると共に、重度化対応について話し合い、意思の共有に努めている。	○	ターミナルケアについて、ホームの方針を文書化することで、対応への手順と、家族との意志の共有化が明確になるものと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録は他の人の目にふれない場所で行い、個人情報の秘密保持に配慮している。プライバシーに関すること、繊細な事柄は居室や、入浴時など1対1で介助する際にコミュニケーションをとるなど工夫している。評価当日の職員の態度や言葉かけは丁寧で穏やかであり、年長者を尊敬する様子が伺えた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日光が好きで、寒くても外に出たい人、午前と午後に自室のベッドで休む人、一人ひとりのペースで自由に過ごせる環境になっている。入所当初は問題行動が見られた利用者が、自分のペースで過ごしているうちに、他の利用者への配慮や援助も出来るようになり、状態が回復したケースもみられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人・家族からの情報や、残食の量などを観察し、好みを把握している。海苔巻きを巻いたり、梅干をつけたり、食事の後片付けをしたり、利用者の力を借りながら仕度をし、一緒に食事を楽しむ取り組みが行なわれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は入居者の希望を尋ね、意思を尊重し、職員体制を確保して、希望に添った一人浴の支援が行われている。湯船のお湯は随時入れ替え、入居者と介助者がコミュニケーションをとりながら、心地よく入浴できるように支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌を唄ったり、茶碗拭き・洗濯物干し・ゴミ袋の名前書き・封筒の印鑑押し・床拭きなど、生活歴を活かした役割を担う支援が自然体で組み込まれている。また、コスモス観賞やスイカ割・浴衣を着てのそうめん流し・誕生会など、様々な気晴らしの支援が行われている。	○	職員が比較的若年である為、高齢者の戦争時代の話題などには対応できないこともあり、傾聴ボランティアを募るなど、楽しみを増すための取り組みを多様に計画しており、その成果が期待される。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・散歩・菜園の水遣り・気晴らしのドライブ、隣接のデイに参加するなど、一人ひとりの希望や気分に沿った支援が行われている。	○	空き店舗を利用して、手作り漬物などを販売している「町の駅」への外出が検討されている。地元住民と交流する機会が増え、楽しい外出の支援になると思われる。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、出入りは職員がさりげなく見守っている。帰宅願望のある利用者は顔写真を隣接のデイサービスに渡し、見守りの協力を得ている。また、夜間は居室の窓が開くと、夜勤職員の携帯に通報が入るシステムが採用され、職員は警備会社に直通で連絡を取り、緊急時に対応する体制がある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、5月と12月に隣接するデイサービスと合同で火災避難訓練、防火訓練を行っている。また、地元夜警団へ法人から寄付をするなど配慮し、良好な関係が築かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分摂取量・体重が記録され、必要量の確保に努めている。また、母体法人の管理栄養士によるカロリー計算や摂取品目数も記録され、栄養摂取の目安になっている。カリウム値制限などの個別ケースにも配慮した支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天窓からの採光で明るく、清潔感がある。食卓ごとに野の花が飾られ、季節感を出す努力が見られた。利用者同士仲が良く、助け合う姿も見られ、リビングやウッドデッキで和気合いあいとおしゃべりし、歌を唄っている様子は居心地よさが感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋ごとに壁紙やカーテンの色を変え、少しずつ異なった雰囲気になっているが、居室への個人の持ち込みは少なく、シンプルな室内となっている。家族の協力なしには出来ないことと思われるが、よりその人らしい居室作りを家族と話し合っても良いと思われた。ポータブルトイレを入居者の体高に合わせる工夫や、個別体調と好みの室内温度調整で心地よい環境作りの努力が見られた。		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム和楽の里
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名郡南関町大字久重字坂本3424番地3
記入者名 (管理者)	古川 葉子
記入日	平成 20 年 1 月 21日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本体施設の理念を継承し、地域密着型サービスとしての資源を活かしながら、利用者の自己決定に基づくその人らしい生活が継続できることを目標とした理念を掲げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	認知症の方の人権と尊厳を尊重したケア方針を基に、定期的に勉強会を開催し、理念を基本としたサービス内容、接遇等自己評価を行い、目標とする理念の共有に取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対しては、入居申し込み時や入居説明時、地域に対しては開設前に地元行政区の会合に参加し理念と事業内容の説明を行った。現在は定期的な運営推進会議の席や町との情報交換時等に理念の浸透に努めている。	○	同一敷地内にある認知症対応型通所介護と協力し、認知症についての勉強会を地域に向けて開催していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員の通勤時等はもちろん、隣近所への散歩時等挨拶や会話は積極的に行っている。又最近では近所の方々が自宅で採れた野菜を持って来て頂いたり、グループホームの家庭菜園の野菜の作り方等についてご指導頂いたりするようになった。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設して間もなく、地元行政区に入り、職員が交代で区役に参加すると共に地元の方々との交流を行っている。町や区の行事の案内も随時役員さん方から入り、事業所全体で参加することも多くなっている。(夏祭り・文化祭・どんどや等)	○	地域の方々にグループホームに気軽に来て頂けるような独自の行事等にも取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームが、認知症になっても、安心してその人らしい生活ができる場所としての理解が地域にも徐々に浸透してきており、地元の方々からも近くに来て良かったと言う声が聞かれるようになった。	○	開設して1年目であり、まずは理念の浸透を図りつつ、地域の方々の事業へのさらなる理解に努めていきたい。認知症高齢者に関わる専門性を活かしながら、地域の課題、ニーズにあった相談受付、介護者教室等の開催を検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設して1年目であり、現在までは定期的な勉強会を通して理念の共有と具体的な業務の改善に取り組んできた。自己評価、外部評価の意義においては職員全員がその意義を理解している。	○	自らの理念を実践するため、自己評価、外部評価を実施することにより、評価を生かして具体的な改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、日常生活状況や心身状況又事故報告やその対策についての報告等を定期的に行っている。各委員の皆様方からの意見、指導を基にサービス向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者においては、各種手続きや行事案内等に出向き、現況報告や情報交換に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業所独自では行っていないが、本体施設の全職員勉強会で地域福祉権利擁護事業並びに成年後見制度の勉強会を開催し、参加している。	○	現在のところ、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の対象者はいないが、今後の必要性を鑑み今後も勉強会を行っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しては、理念の共有と実践を基本とし徹底した指導を行っている。又職員個々の利用者への対応を相互観察と相互評価により、虐待防止に努めている。	○	虐待防止に関する勉強会を定期的に行い、志気を高めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に従い説明を行い、その中で不安や疑問点を確認し契約を締結し、説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情意見箱を設置しているが、利用者の方は直接職員に訴えられることが多い。内容に応じて検討会を開催し、職員間で共有すると共に、運営推進会議の席又は町担当者との情報交換時において外部者へその情報を公表している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	主に面会時において、細かく現況報告や状態報告を行っているが、特に健康状態について変化があった場合は常に家族に状態報告を行うと共に面会等を促している。金銭管理についても、定期的に面会時に個人毎の出納帳の確認をお願いする等、必要に応じて電話連絡も行っている。	○ 今後は全般的なグループホームでの活動内容や行事等、利用者の皆様の暮らしぶりを家族を含め地域の皆様に紹介するため、機関紙等の発行も検討していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置と共に、利用者個々の誕生会を始め、家族参加の行事を行った際に家族と職員との情報交換の場を設け、不満や苦情について確認し、意見がある場合は反映している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体で月1回定期的な職員会議を行い、職員の意見や提案等、現場の責任者が持ち寄った意見を全体で検討している。	運営者、管理者においては月1回法人の経営・処遇会議に参加し、細かく状況報告を行い検討する会議を行っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化に合わせて柔軟な対応ができるよう配慮しているが突発的な状況の変化にあっては、対応が難しいことも懸念される。計画的な業務内容による必要時間帯の職員確保、行事等の人員確保においては体制の調整を行っている。	○ 常勤7名にて勤務体制を確保しているが、状況の変化に合わせて柔軟な対応調整が出来るよう、業務内容を精査しながら職員の増員を検討していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員配置においては利用者が馴染みの職員による支援を受けられるよう配置し、職員の異動の際には十分な引継ぎと利用者との関係作りをする準備期間を設けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の月1回開催する定期的な勉強会と事業所内での月1回の勉強会、又認知症介護研修等研修資格要件を満たした職員においては実践者研修やリーダー研修等に参加し、質の高い職員育成に努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設して1年目であるが、地域の同業者との交流によるネットワーク作りまでは達していない。同業者との情報交換は訪問により不定期ではあるが行っており、お互いの状況把握、抱える課題や問題点等情報交換を行い、サービスの質向上に取り組んでいる。	○ 今後は町や同業者への働きかけにより地域密着型サービスのネットワーク作りに取り組み、地域資源を活かしたサービス体系の確立を図っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者・管理者は常に職員の健康状態(心身状況)把握に努め、職員は気軽に相談できる環境づくりに努めている。管理者及び職員のストレス軽減を図るため、運営者も現場へ出向き、相談対応や激励を行っている。又、年に2回は個人面談による職員との意見交換の場を設けている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務表においては必ず勤務状況と勤務体制の確認を行っている。職員個々の個性と長所を把握し、努力や実績に対する評価を年2回行い、直接職員と面談することで意欲向上につながるよう努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでの段階において、それまでの生活状況、習慣等を十分把握し、利用後においては職員一人ひとりがそれぞれの利用者の相談員の役割を果たし、初期段階から信頼関係づくりに努めている。	初期段階においての相談内容等はその内容を職員が共有し、計画作成担当者によりプランに生かすことで問題解決と利用者が安心して生活できる環境づくりに取り組んでいる。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の生活の場をグループホームに移し、安心と信頼の基に利用者・家族が生活できることは、それまでの利用者と家族の信頼関係を維持することにつながるため、相談から利用までの段階において家族との面接時に詳しく家族の相談対応に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談対応の中で、本人と家族が必要としている支援を見極め、地域包括支援センター、行政、介護支援専門員等へ連絡する等対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人を交えた見学説明会や同一敷地内にある法人内他事業所への体験利用等を行い、職員や環境における馴染みの関係づくりを家族と相談しながら勧めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その方の今まで生活してこられた生活観を大切にし、その生活スタイルが継続できるよう、環境面や人間関係づくりに努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人の心身状況を常に家族と職員が共有し、日々の関わりの中で、職員と家族が一体となって支援していくよう関係づくりに努めている。		家族との昼食外出や買い物外出、外泊等家族との事前的な打ち合わせにより実施している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	本人の家族に対する気持ちや家族のこれまでの関わりを十分把握した上で、本人家族の相互関係がよりよい方向で構築できるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と協力しながら、馴染みの方との面会訪問や自宅或いは思い出の場所への外出支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	地域密着の特性から当グループホームにおいては、以前からの知り合いや近所の方もおられ、利用者同士の関係は極めて良好な状態であるが、利用者個々の性格や生活スタイル等に配慮し、日頃から良好な関係作りに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	担当介護支援専門員との情報交換により現況を把握し、必要に応じて家族からの相談に応じている。		開設から1年目を迎え、契約終了者は2名である。1名は入院、1名が特別養護老人ホーム入所。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメント、家族からの情報収集を基に、一人ひとりに合わせた支援に努めている。		自己決定を基本としながら、本人の生活スタイルに合わせて日常生活支援を行っている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント、家族からの情報収集を基に、一人ひとりに合わせた支援に努め、これまでの生活の継続につなげている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活状況においては日々日誌に記録し、状態と状況の変化の把握に努めている。又定期的なケース会議により、本人の持っている能力に合わせた介護内容、生活支援が行われているか検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成に当たり、ケース会議を開催し、本人、家族の意向及び主治医の意見書等を反映した計画作成に取り組んでいる。介護計画においては本人又は家族に確認して頂き、確認印を頂いている。	○	今後、介護計画の見直し等において、可能な限りケース会議に家族も同席して頂き、一定期間の計画に対する評価と課題を検討し、介護計画に生かしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリングによる職員の情報共有化と家族に対する情報提供、又介護計画目標期間時における計画の見直しを行っている。本人の状況、状態に変化ある場合はその都度検討し、見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活状況や個別のADL状況を毎日記録すると共に職員個々の気づき点のメモ、申し送りノート等活用しながら情報の共有に努め、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人グループ事業所の多機能性を活かし、デイサービス、ホームヘルプサービス、ショートステイ、特別養護老人ホーム等のメニューを持って、利用者の状況、状態に合わせた支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて民生委員より助言やアドバイスを頂き、消防においては避難訓練時の利用者、職員へのアドバイス、文化教育機関においては社会活動参加の一環として文化祭参加(作品展示等)を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーにおいては不定期ではあるが、担当者が出向いたりして情報交換を行っている。現在他のサービスを利用する意向のある利用者はおられず、又現在までそのような事例はない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	当グループホームにおいては現在、地域包括支援センターとの権利擁護等における協働事例はない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居説明時に本人家族の希望を確認しながらかかりつけ医を決定している。かかりつけ医への受診は家族同行を基本として行っており、家族も協力的である。又、協力医とかかりつけ医の連携も円滑に行っており、急変時においても協力医の迅速な対応(往診等)を頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	敬意を持った言葉使いや対応に努めている。個人情報においては個人情報取扱い指針に基づき、厳重に管理している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃からの生活支援の中で利用者が本人の思いや希望を率直に表出できるような雰囲気作りと援助技術に取り組んでいる。又本人の能力に応じた自己決定を尊重し、援助を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活スタイルを崩すことなく、一人ひとりの状態・体調やペースに合わせて自由な時間を過ごして頂いている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装や身だしなみ等は個々の生活習慣に合わせ、理容・美容は本人が望む行きなれた理美容店へ行く等、家族の協力を得て行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を反映し、本体施設の管理栄養士と協力して献立を立てている。一人ひとりの能力に合わせて配膳や準備を職員と一緒にしている。	利用者の状態に合わせて食事形態の工夫や自力摂取における補助具の活用等行い、必要に応じて自立支援につながる介助を行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者個々の嗜好品に関しては本人家族の意向に従い、生活の中の楽しみとして提供、支援している。	健康上又は疾患等を考慮し、家族や主治医との連携の基、量的な制限や内容の検討を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者個々の排泄状況を把握して、それぞれの排泄のパターンに応じた援助を行っている。		排泄チェック表を基に、時間誘導や利用者の便意・尿意の確認を行い排泄の失敗をなくし、気持ち良く生活できるよう支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	予め利用者から希望入浴日や時間をお聞きし、安全かつゆったり入浴を基本とした職員体制を確保することにより、一人ひとりの希望に応じた入浴を実施している。湯船のお湯は随時入れ替えし、快適な入浴を楽しんで頂いている。		利用者の状態によっては主治医との連携の基、入浴時間、温度、皮膚に与える石鹸等の使用等アドバイスを頂きながら入浴を行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や生活スタイル又その日の状態に合わせて安眠や休息の支援を行っている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人・家族との会話の中で生活歴を把握し、生活の中で培われた得意な仕事、趣味等を見出し、本人が楽しみや生きがいと感ずることを支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理における自己管理は大切なことである認識は持っているが、現在当グループホームにおいて現金を自己管理されている利用者はおられない。		小口現金の管理においては、家族の了承を得て職員が行っており、面会時等に出納帳の確認をして頂き、使途・残高の確認と共に確認印をもらっている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別の希望や気分に応じて、散歩や買い物、季節毎の野外活動等外出支援を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力による昼食等の外食又は自宅への外出支援を行っている。	○	日帰り旅行や一泊旅行等利用者の希望があれば家族と協力しながら、計画的に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等においては、利用者の能力に応じて、自由にやり取りが出来るように支援している。必要な場合はFAX等も活用している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間においては特に制限はしておらず、居室やデイルームにゆったりと過ごして頂けるスペースを作っている。		必要に応じて和室を提供する場合もある。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本体施設の運営方針に並び身体拘束は行わないケアに取り組んでいる。又、月1回の勉強会の中で身体拘束に関わる内容を取り上げ、職員への意識付けと資質向上に努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関等すべて施錠は行っていない。又その理念を月1回の事業所内全体勉強会の中で取り上げ、意識高揚に努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	毎朝のミーティングにより、その日の利用者個々の心身状況を職員全員が共有し、プライバシーに十分配慮しながら行動を見守っている。夜間は基本的に2時間おきに状態観察を行っている。		日中、夜間の心身状況と行動に注視し、細かく記録をとって申し送りを行っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	身体状況や活動状況における安全性を考慮し、必要な場合は本人家族へ説明を行い、危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・アクシデント報告書、事故報告書を提出し、職員で会議を行い、原因の究明と対策、予防再発防止に努めている。		定期的な運営推進会議の中で事例の報告を行い、それに対する対策等共に検討したり説明を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルに沿って対応している。救急蘇生法・応急手当の訓練に関しては、法人全体の中で年1回実施しており職員も参加している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開設後に消防署や地区消防団に当グループホームにて建物の構造(人がいる場所)や避難経路の確認を行い、災害時における対策を検討している。		地元区に区入りしており、地区消防団も極めて協力的である。 年2回、同一敷地内の事業所と合同で避難誘導訓練、防火訓練等を行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所説明時に家族に対して、利用者一人ひとりに起こり得るリスクに関して説明を行い同意を得ている。又そのリスクにおいては職員間でも共有し合い対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックを行い、その日の状態を確認すると共に変化ある場合は迅速にかかりつけ医に状態報告し指導を仰ぐ等、医療機関と連携して対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬内容は副作用等含めて、はすべての職員が理解している。服薬管理においては利用者の能力に応じて服薬支援を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日夕食にてヨーグルトを形態工夫して提供している。又献立作成において管理栄養士と協力しながら、繊維質の多い食材を豊富に取り入れる等、献立を工夫している。水分補給においては利用者個々の状況に合わせて適度な補給に努めている。		利用者の身体状況に合わせて、毎日体操を実施したり、天気の良い日は軽い散歩を行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き・義歯洗浄を行い、口腔内の清潔に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事摂取量や水分摂取量をチェックし、状態を確認して必要カロリーや水分量の確保に努めている。利用者個々のペースに合わせた時間で提供し、必要に応じて介助をおこなっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルに従い、徹底した予防管理に取り組んでいる。		手指消毒や洗浄方法、酸性水を使った洗浄・消毒、インフルエンザ等の流行期における職員のマスク着用、面会者における対応等、細部において徹底した予防管理を行っている。法人の全体勉強会の中で感染症について勉強会を行い、参加している。（外部講師：嘱託医）
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や包丁、布巾等を毎日熱湯消毒や漂白剤につけ、除菌消毒を行っている。又、シンク周りは常に清潔にするよう、酸性水やアルコールを使った消毒や清掃を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はバリアフリーで出入りのしやすい構造となっており、玄関に季節感を感じる花々や置物を飾って、明るい玄関の雰囲気づくりに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や共用空間における建物構造においては、明るくて温かく、暮らしやすさを基本にした構造となっている。ダイニングやテーブルには季節の花や自分達で作った作品を置く等、季節感と生活感を醸し出すよう工夫している。		利用者個々の価値観や生活感に配慮した上で、共に生活することで孤独感を解消し、楽しくはりのある暮らしが続けていけるよう支援している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの位置を工夫したり、天気の良い日はウッドデッキにイスやテーブルを置いて居場所作りを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居説明の段階にて本人家族から居室環境や思い出の品・馴染みの物等伺い、出来るだけ今までの環境に近い形で居室環境を整えるよう配慮している。日頃からお部屋のレイアウトにおいては本人にとって一番居心地の良い環境となるように会話で確認しつつ、訴えがあれば家族とも検討して配置換え等も行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	法人の本体施設の処遇方針に習い、換気には徹底した配慮を行い実施している。又温度調節においても居室はそれぞれのエアコンにて利用者個々の身体状況に合わせた空調管理を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の構造はバリアフリーの構造となっているが、ダイルームを居室が囲む形となっているため、移動箇所の空間においては手すりと共に家具を活用し安全の確保と自立支援に努めている。手すりの高さはもちろん、水道の蛇口や洗面台の高さ等使いやすく造られている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレはドアの利用者の視点の高さに表示しており、台所やお風呂場は一目でわかるように暖簾を下げている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	南側の広いウッドデッキは日当たりも良く、観葉植物やテーブル・イスを置いて気分転換、団欒の場として活用している。建物の周りは緑豊かな農村地帯であり、田んぼや畑を眺めることによって季節感が感じられる。事業所においても空き地を利用して家庭菜園を作り野菜を育てている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域密着型サービスとしての機能を果たすため、積極的に地域との関わりを築き上げ、理解と協力を求めながら地域福祉の向上に貢献していきたい。